チェックシート

心木なし瓦棒葺（部分吊り子）（通し吊り子）

中　間　検　査

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 区　分 | チ　ェ　ッ　ク　ポ　イ　ン　ト | 良 | 否 | 改善方法 |
| 材料 | 溝板の厚さは、0.35㎜以上で且つ仕様書の通りの厚さが使用されているか。 |  |  |  |
| 吊り子、キャップの板厚は溝板と同じ物が使用されているか。 |  |  |  |
| 下葺材は、防水シートが使用されているか。 |  |  |  |
| 釘の長さは、唐草、けらば止め、をする場合は32㎜以上、吊り子止め釘は十分な強度を有する釘又はビスを使用されているか。 |  |  |  |
| 座金は、板厚1mm以上、直径20㎜以上の物が使用されているか。 |  |  |  |
| 下地の状態及び下葺き | 広小舞の形状や寸法、取付け状態はどうか。 |  |  |  |
| 断熱材の使用は指定してあるか、又、指定の物と同等以上の効果の有るものが使用されているか。 |  |  |  |
| 下葺の重ねは、長辺部100㎜、短辺部200㎜以上で横貼りとなっているか。 |  |  |  |
| 墨出し | 割付け、墨出しが正確に行われているか。 |  |  |  |
| 吊子 | 吊り子の長さは、90㎜以上の物が使用してあるか。 |  |  |  |
| 吊り子の間隔は、606mm以内に堅固に止めているか |  |  |  |
| 唐草 | 継ぎ目重ねは、30mm以上となっているか。 |  |  |  |
| 垂れ下がりは、野地板等と10㎜以上長くなっているか。 |  |  |  |
| 止め釘間隔は、455㎜以内で固定してあるか。 |  |  |  |
| 桟鼻 | 後に倒れないよう工夫し施工してあるか。 |  |  |  |
| 水上端部 | 立上り部分は､八千代折りとし、水返しが付けてあるか。 |  |  |  |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 支部長印 | 保証委員長印 | 担当事務局印 |
|  |  |  |

㈱全日本建築板金保証センター

鳥取県支部長　殿

|  |  |
| --- | --- |
| 工事現場名 |  |
| 受　付　番　号 | 第　　　　　　　　　号 |
| 検　　査　　日 | 平成　　年　　月　　日 |
| 再　検　査　日 | 平成　　年　　月　　日 |
| 提出日 | 平成　　年　　月　　日 |
| 工事完成予定日 | 平成　　年　　月　　日 |

上記項目に従い検査を行ったことを認めます。

検査員資格番号　第　　　　　　　　号

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　検査員氏名

チェックシート

心木なし瓦棒葺（部分吊り子）

完　成　検　査

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 区　　分 | チ　ェ　ッ　ク　ポ　イ　ン　ト | 良 | 否 | 改善方法 |
| キャップ | キャップ掛けは、溝板になじみよく均一にはめこまれているか又、締め機等で十分締め付けてあるか。 |  |  |  |
| 棟納め | 棟包みは、棟板に32mm以上の釘を455㎜間隔以内で止めてあるか |  |  |  |
| 棟包みの垂れ下がり部分は、瓦棒間に切り込んで溝板まで下げているか､又は､エプロンを取り付けてあるか。 |  |  |  |
| 棟包みの継ぎ手部分は下部上部をあだ折し、シーリング材を注入してあるか。 |  |  |  |
| 棟しぼり機で、棟しぼりをした部分の両隅に亀裂はないか。又、補修はしてあるか。 |  |  |  |
| はぜ | 屋根勾配10/100未満の場合、瓦捧のキヤツプハゼ内にシールが施されてあるか。 |  |  |  |
| 雨押え | 雨押えの立上りは120㎜以上で、垂れ下がり部分は瓦俸間に切り込んで溝板まで下げているか、又は、エプロンを取り付けてあるか |  |  |  |
| けらば納め | けらば端部の幅は働き幅の1/2以下であるか。 |  |  |  |
| モの他 | 屋根付の表面に傷はないか。又、タッチアップ等の補修がしてあるか。 |  |  |  |
| 屋根の上や関係する場所の清掃は行われているか。 |  |  |  |

㈱全日本建築板金保証センター

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 支部長印 | 保証委員長印 | 担当事務局印 |
|  |  |  |

鳥取県支部長　殿

|  |  |
| --- | --- |
| 工事現場名 |  |
| 受　付　番　号 | 第　　　　　　　　　号 |
| 検　　査　　日 | 平成　　年　　月　　日 |
| 再　検　査　日 | 平成　　年　　月　　日 |
| 提出日 | 平成　　年　　月　　日 |
| 工事完成予定日 | 平成　　年　　月　　日 |

上記項目に従い検査を行ったことを認めます。

検査員資格番号　第　　　　　　　　号

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　検査員氏名

チェックシート

心木なし瓦棒葺（通し吊り子）

完　成　検　査

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 区　　分 | チ　ェ　ッ　ク　ポ　イ　ン　ト | 良 | 否 | 改善方法 |
| けらば納め | けらば端部の幅は働き幅の1/2以下であるか。 |  |  |  |
| キャップ | キャップの取付けは、溝板になじみよく取り付けられていて、充分な締め付けが行われているか。 |  |  |  |
| 棟納め | 棟包みは、棟板に32 ㎜以上の釘又はビスを455㎜間隔以内で止めてあるか。 |  |  |  |
| 棟包みの垂れ下がり部分は、瓦棒間に切り込んで溝板まで下げているか、又は、エプロンを取り付けてあるか。 |  |  |  |
| 棟包みの継ぎ手部分は下部上部をあだ折りし、シーリング材を注入してあるか。 |  |  |  |
| 棟包みをしない方法として、切り込みを入れて折り曲げをした棟の納めの場合、切り込み部分に適切な処理がしてあるか。 |  |  |  |
| 棟包みをしない方法として、棟しぼり機を使用して棟を納める場合、折り曲げた両隅の部分に亀裂等がある場合の適切な処理がしてあるか。 |  |  |  |
| 水上部分の雨押え | 継ぎ手部分け、棟の納め方に準じて施工されているか。 |  |  |  |
| 雨押え板は、キャップの取付け後に、各たる木ごとに釘止めとし、水切は32㎜以上の釘を455㎜間隔以内で止めてあるか。 |  |  |  |
| 雨押えの水下側は、瓦棒間に切り込んで溝板まで下げているか、又は、エプロンを取り付けてあるか。 |  |  |  |
| 水切の立上り寸法は、120㎜以上になっているか。 |  |  |  |
| 流れ方向の雨押え | 水切の垂れは、一方は溝板の底まで折り曲げ、他の一方は120 mm以上の立ち上りをしてあだおりがされているか。 |  |  |  |
| 継ぎ手の重ね部分にはシールが施されてあるか。 |  |  |  |
| その他 | 屋根材の表面に傷はないか。又、タッチアップ等の補修がしてあるか。 |  |  |  |
| 屋根の上や関係する場所の清掃は行われているか。 |  |  |  |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 支部長印 | 保証委員長印 | 担当事務局印 |
|  |  |  |

㈱全日本建築板金保証センター

鳥取県支部長　殿

|  |  |
| --- | --- |
| 工事現場名 |  |
| 受　付　番　号 | 第　　　　　　　　　号 |
| 検　　査　　日 | 平成　　年　　月　　日 |
| 再　検　査　日 | 平成　　年　　月　　日 |
| 提出日 | 平成　　年　　月　　日 |
| 工事完成予定日 | 平成　　年　　月　　日 |

上　　　記項目に従い検査を行ったことを認めます。

検査員資格番号　第　　　　　　　　号

検査員氏名